

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

地域に貢献できる 医療を提供したい

揖斐厚生病院
看護部長 宗宮知香さん



揖斐郡揖斐川町にある揖斐厚生病院は、地域に愛され、親しまれている病院です。今回、その病院で看護部長を務めている宗宮知香さんに病院の特徴と仕事に対する思いについてお話を伺いました。

Q 揖斐厚生病院の特徴を教えてください。

まず、岐阜厚生連には岐阜県内に7つの病院と1つの看護学校があります。揖斐厚生病院はその中の1つの病院です。昭和時代に農協によって設立されました。揖斐厚生病院は揖斐郡にあり、揖斐郡の医療を担っています。治療をする急性期の病棟と在宅復帰に向け、準備やリハビリをする地域包括ケア病棟、医療を必要とし在宅の生活が難しい患者さんが入院している療養病棟があるケアミックスの病院です。また、訪問看護ステーション、検診センター、人工透析や手術室などがあり、地域の中核病院となっています。

Q 他の病院にないこだわりや自慢はありますか。

看護部は看護師、保健師、助産師、看護補助員という職種で構成しています。看護師は約220名、全員で240名ほど働いています。自慢は日本看護協会認定された、特定の専門分野の知識・技術を持った認定看護師が10分野13名働いていることです。その看護師たちが中心となって多職種で医療チームを作り、活動をしています。専門的な知識を持った多職種で患者さんに関わることで、質の高いケアが提供できます。その活動がすごく活発なところが揖斐厚生病院の良いところだと思います。あとは、教育に力を入れていくのも自慢です。看護師はなったら終わりでなく一生勉強が必要です。だから、新人看護師の教育はしっかりと計画を立てて行っています。また、ずっと勉強できるように研修を組み立てたり、院内だけでは学べない内容はいろんな所で研修したりしています。

かりと看護を提供できた時はうれしいですね。

Q 仕事をしていた辛いと思う時はどんな時ですか。

命に向き合う時は緊張して一生懸命助けようと努力していますが、自分が患者さんの為に力になることができない時もたくさんあります。医療や看護はここが限界だな、と感じる時もあり、そんな時はつらいですね。でも、看護師をやめたと思っていいことはありません。

Q 家庭と仕事を両立させるためにどんなことをしているのか教えてください。



Q 宗宮さんはどんな資格を持っているか教えてください。

看護師ですね。あとは、認定看護管理者です。

Q 看護師になろうと思ったきっかけを教えてください。

私は人と接する仕事をやりたいという理由で看護師になろうと思いました。責任がある仕事を一生懸命やれると思ったのでこの仕事を選びました。

Q 看護師から看護部長になるまでの道のりを教えてください。

3年課程の看護専門学校を卒業してから、ずっとこの病院で働いています。看護師としての仕事だけでなく後輩の指導、組織が運営できるように係の仕事や委員会活動なども積極的に行っていました。主任を5年経験した後師長になりました。一つの部署をまかされて、師長を2年半務め、そのあと2か月間研修に行き、副看護部長になりました。副看護部長は半年務めて2018年の4月から部長です。

Q 看護師と看護部長の違いはなんですか。

看護師は現場で患者さんのケアをしたり医師の指示を受け介助したり、新人や後輩の指導を行います。けれど、部長はほとんど現場の看護ケアを行うことはなく、看護部の組織を動かす仕事をしています。看護師が現場できちんと看護ができるように環境を整える仕事もしています。

Q 看護部長としてのやりがいを教えてください。

教育をしていく時や、様々な仕組みを考えていく時に問題点をうまく解決できるとやりがいを感じます。それが繋がって現場で看護師が患者さんにしつず。

Q 進路に悩んでいる高校生にアドバイスをお願いします。

いろんな情報を収集し、周りの人からもいろんな話を聞いて、本当に自分がやりたいと思うこと、自分に合っていると思うことを選ぶと思います。親に看護師になれと言われた子が時々いますよね。親にそう言われたから何かあると、親のせいにしてしまいますよね。だから、人に言われたからやるのではなく、自分がやりたいと思うことをやることなのかなと思います。



【感想】

宗宮さんの話を聞いて本当に自分がやりたいことを選ぶことは大切だと感じた。自分が満足するだけでなく、他の人も満足できるように働く宗宮さんはすごいと思った。やめたいと思ったことがないと話されていて私もそんな職業に就きたいと強く感じた。自分に合った職業を見つげるためにほかの職業を調べたい。なりたい自分になる為に今の勉強を頑張りたい。